

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 名古屋市立笹島中学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例: 小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒450-0002
愛知県名古屋市中村区名駅四丁目 19 番地 1 号
E-mail sasashima-j@nagoya-c.ed.jp
Website _____

幼児児童生徒数 男子 32 名 女子 35 名 合計 67 名
幼児・児童・生徒の年齢 13 歳～15 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「学ぶ力を身に付け、国際社会に生きる児童生徒の育成」をテーマとし、多様性が増した国際社会、国際都市名古屋で、友達や周りの人の考えを尊重し、考慮にいれつつ、身につけた知識や技能を活用し、自らの力で課題や変化に対応する児童生徒の育成を目標に掲げている。

教育活動の推進においては、地域の伝統文化・郷土文化に触れる体験を積極的に取り入れた「郷土学習の推進」、他国の文化に触れる中で人権意識を高める学習の場の設定する「心の教育の推進」、多文化にふれる交流を積極的に取り入れた「国際教育の推進」、話し合い活動を積極的に取り入れ、仲間の意見を聞き考え意見し合える授業づくりを行った「教科学習の充実」を 4 本の柱としている。

具体的には、「地域の伝統文化にかかわる学習」「国際理解・文化の多様性にかかわる学習」に取り組んだ。

地域の伝統文化にかかわる学習においては、地域の 200 年以上引き継がれている伝統的なお祭りの際に出される、山車やお囃子についての学習を行った。

本校は、二福神車、唐子車、紅葉狩車といった、3 台の山車がある。そのうちの 2 台を校内に保存しており、学区の伝統文化と触れあう機会に

恵まれている。また、山車にはそれぞれ、絡繰り人形が備え付けられており、お囃子の音楽に合わせ披露される。その伝統文化に触れあうため、本校にお祭りを継承している方達を招き、お囃子体験をさせて頂いたり、山車について学ぶ機会を設けたりしている。

- 国際理解・文化の多様性にかかわる学習においては、様々な国の文化に触れあう活動を取り入れている。本校は、帰国児童生徒を受け入れており、2~3割の帰国児童生徒が在籍している。アメリカ、中国、フィリピンを始め、モロッコ、インドネシアなど様々な国からの帰国児童生徒がおり、言語も英語、中国語、タガログ語、スペイン語など多様である。当然、食べ物を始め文化も大きく違うため、互いの文化を紹介したり調べたりする活動を始め、日本の文化や食べ物についても触れあう取り組みを行った。

また、体育祭や文化祭では、アナウンスに愛護のスピーチを交えるなどの活動も加え取り組んでいる。



校内の山車チャプター



絡繰り人形実演チャプター



お囃子体験チャプター



体育祭イングリッシュアナウンスチャプター

(2) 活動の詳細

① 活動内容

ア. 活動分野 (複数選択可)

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

特になし

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

<p>本校では、ESD を核とした課題解決型の学習過程を重視した教育課程を編成している。ユネスコスクール加盟時は、国際理解、地域の伝統文化の領域に限定し、総合的な学習に時間に関連させて実践を行っていたが、毎年の成果と課題をふまえ、指導内容を少しずつ変えている。生徒の実態や地域や保護者からの要望などを考慮し、学校に求められていることも整理しながら教育課程を加除修正している。また、校内での研修を行い、指導方法について共通理解を図るとともに、積極的に地域の方を招き、適切に指導できるようにしている。</p>
--

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

<p>日頃から課題解決型の学習過程を展開するため、研修や授業公開を行っている。授業公開後には、授業検討会を行い、今後の指導に向けて共通理解を図ったり、情報交換したりしている。また、本校は、1 学年が約 20 名程度の小規模校である。そのため、全職員で、共通理解を図りながら取り組むことがたやすい環境である。また、地域の方も職員と顔見知りになれる環境であり、継続的に取り組める環境にある。</p>

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

毎年、1月に児童生徒、保護者、教職員を対象に学校での活動についての評価を行っている。結果は次年度の活動にそれぞれ生かせるようにしている。また、それぞれの結果を学校関係者評価委員会で公表して意見をいただき活動に生かしている。主な成果としては、社会に出たときに役に立つ力を着実に身に付けつつあることや、ニーズに合わせて多様な活動を展開していることが挙げられる。今後、教職員が入れ替わる中で、どう継続していくかが課題である。

- ⑤ ESDの推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（200字程度）

※チェック事項 2-2 に対応

活動の様子は、その都度、学校だよりや学年だよりに掲載し、保護者に伝えている。またPTA広報委員により、新聞にまとめ地域へ配付をしている。また、テレビの取材を受け、伝統文化の継承についてESDの取り組みが掲載された。学校の伝統文化を大切に子どもを育てる取り組みを評価していただき、今後の継続した取り組みを期待されている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）（200字程度）

※チェック事項 2-3 に対応

地元の保存会の方と協力しながら取り組んでいる。祭りには3つの保存会があり、それぞれの担当者を招いたり、学区に出かけたりして地域文化に触れあう活動を行っている。地域では、子どもの少子化により、伝統文化の継承が難しくなっている現状があり、本校の活動はそういった意味でも地域にとって大切な活動となっている。本校の活動を機会に、お囃子を始めた児童生徒もいる。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）
※チェック事項 2-4 に対応

愛知県ユネスコスクール指導者研修会に参加し、早稲田大学教授の池田清彦氏による講演やユネスコスクール実践校の発表を聞いた。この研修会に参加したことで、本講の取り組みを継続していくための参考とすることができた。
また、今後も引き続き交流していくことの大切さも実感した。

⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

中学生においては、1年生「山車、絡繰り人形、お祭りの歴史を知る」2年生「山車、絡繰り人形、お祭りをどのように維持していくかを知る」3年生「自分が今後どのように地域と関わっていくかを考える」というねらいを持たせ取り組んだ。児童生徒、保護者へのアンケートでは、「地域や地域の文化に触れ、地域の一員であるという気持ちが育っている」という項目に於いて、約92%の児童生徒が、強く思うそう思うと答えた。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

平成29年度の実践の成果と課題、児童生徒の実態をふまえながら、活動計画を作成する。大きな変更は行わず、児童生徒や教職員に過度な負担がないように配慮していく。外部の専門家による授業や講演は、児童生徒、保護者、教職員に好評であり、ESDの推進にあたって効果的であると考えられるため、積極的に活動していく。

各学年ごとに、明確なねらいを定めたことで、生徒は地域の伝統的文化の重みを感じ、次は自分達が支えようという気持ちをもつ生徒も見られた。来年度も、「歴史を知る」「現状を知る」「自分がどのように地域の中で関わっていくのかを考える」というねらいのもと活動を深めていきたい。

また、帰国児童生徒の生徒もいきいきと楽しく学校生活を送れるよう、多文化理解の活動を通して、互いを認め合い理解し合う活動においても継続していく。